Vol.805　（月刊）毎月１日発行　Kenko Shinbun　2023年（令和５年）12月１日　無料

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人　新健康協会
〒813-0001
福岡市東区唐原６－７－１
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十九年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

半文明半野蛮の世界

現代は最も進歩した文明世界と誰しも思っているだろうが、その内容をよく検討してみると、あまりに欠点が多いのは日々の新聞をみても分かる通りで、犯罪者や不幸な人間の記事で埋まっている。公平にみて良い事よりも悪い事のほうが断然多い事実である。最近大問題となった汚職事件などをみても、検察当局が一度手をつけ始めるや、それからそれへと、どこまで広がってゆくか分からないくらいであるから、今度の事などあるいは氷山の一角で、本当に調べたら、政界も財界も、無傷の人間は果たして幾人あるであろうか、残らずと言いたい程であろう。

それについて、よく考えてみると意外に思う事がある。それはこの事件の関係者のことごとくは、教育の低い田夫野人ならとにかく、いずれも高等教育を受けた文化人のみである事である。従って、これでみると高等教育を受ければ知識は発達し文化的人間となる以上、犯罪など減るばかりと思うが、今回の事実をみる時ただ唖然とするばかりである。としたら、実に不可解千万といわねばならない。そこで標題のごとく半文明半野蛮の時代といったのであるが、これをみても否といえる人はおそらく一人もあるまい。では一体この情勢に対しいかにすればいいかというと、それはあえてむずかしい事はない。至極簡単である。即ち私が常に唱えている唯物偏重教育より目覚め、唯心教育を勃興させる事である。分かりやすくいえば、形のみを信じ形なきものは信じないという迷妄を打破する事であって、その唯一の方法としては、宗教の力によって神の実在を認識させる事である。

そうして、この事が指導者階級に分かると共に国民全般に行き渡るとしたら、犯罪を犯しても人の眼にさえ触れなければいいとする間違った根性が直る以上、犯罪は出来なくなり、明るい良い世の中になるのは分かり切った話である。ところがこんな簡単明瞭な道理が分からないとみえて、何時になっても法という網や檻を厳重に作って取り締まるのみであるから、人間を動物扱いにしている訳で、これでは効果のないのは当然である。ところが事実はこの法の檻でも社会秩序が維持出来ないとしたら、その原因はどこにあるかという事に気が付きそうなものだが、一向に気が付かない。相変わらず社会は半人半獣の人間の集団となっているのである。この意味において、最早唯物教育では人間の獣性を取り除く事が出来ないのは、あまりに明らかである。故に今までの教育では、結果において獣性を蔽い隠す技術の進歩でしかない。従ってこれでは、いつになったら真の文明社会が出来るか見当が付かないのである。としたら、これを解決するにはどうしても人間の魂から獣性を抜く事であって、それ以外に根本的方法はあり得ない。

それが宗教であるが、不思議にも高等教育を受ければ受ける程宗教が嫌いになるのはどうしたものか、これが文明の一大欠陥であろう。この原因こそ肚の中にある獣性が宗教を忌避するためであって、悪は善を好まないからである。としたら、現代教育は知能的悪を作るものといってよかろう。ところが最早それは許されない時が来た。というのは本教の出現である。何となれば、本教は神の実在を目に見せ、手に摑ませる事が出来るからである。というと、そんな素晴しい事はありようはずがないというであろうが、実は訳なく出来るのである。本教に接するや立ち所に神霊を把握出来るからであって、それが奇跡である。本教が驚くべき奇跡を無限に現わしつつあるのが何よりの証拠であって、これこそいよいよ神は半文明半野蛮の跛行的文明を是正し、唯物唯心の両脚揃って歩むところの真の文明世界を造るべく、神の大経綸は開始されたのである。

浄霊体験記

2ページ
3ページ

- 手術することなく　すっかり元気に…
- 絶望から救われ　喜びと幸せの生活…
- 食生活の大切さ　身に沁みて分かる…
- 「ありえないこと…」　主治医が驚いて…

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

胃ガン・椎間板ヘルニア

手術することなくすっかり元気に…

福岡支部　禅院雄治（ぜんいんゆうじ）（53）

私は二〇一三年頃から胃に違和感があり、食事をすると胃痛と吐き気を催すようになりました。仕事で車を運転することが多く、同じような症状に悩む同僚がいましたので、職業病かな…とあまり気にもせずに過ごしていました。

ところが、二年程経ってから食後の胃痛、吐き気の頻度が増え始め、固形物を食べると必ず吐くようになり、仕事の忙しさと胃痛と吐き気の恐怖から食事も摂りたくなくなり、一日一食か二食、麺類だけの生活が続きました。

それから一年後、仕事中に激しい胃の痛みで動けなくなり、十日程会社を休みました。胃痛と吐き気はひどかったのですが、子供の頃から浄霊を受けていた私は、浄霊を続けながら仕事に復帰しました。

しかし数日後、仕事中にまた胃痛で動けなくなり休むことになりました。診察を受けると、悪性腫瘍、つまり胃ガンと診断されました。

ガンを取り除くことはもう無理らしく、抗ガン剤での治療の方向で話を進めていましたが、私は「家族と相談して改めて伺う」と伝え、病院を出ました。

翌日支部に行き、支部の先生より励ましの声を掛けていただき、私はしっかりと明主様にお願いして数日間浄霊を受けました。そして数日後、再び検査をしたのですが、私はその検査結果に驚きました。

なんと〝良性の腫瘍〟と出たのです。医師も不思議に思ったのか、もう一度検査をすると言われ、胃の細胞を再検査しました。するとその結果も〝良性〟でした。その後、約三ヵ月間は支部で浄霊を受け、胃に負担のない食事を摂ったことで、処方された薬も徐々に止めていくことができました。今では、胃痛や吐き気もなく、食事もおいしく食べられるようになり、すっかり元気な体になりました。

大変な奇跡をいただき、より一層浄霊の素晴らしさを感じることが出来ました。本当に嬉しかったです。

一ヵ月で歩けるように…

これは、二〇一六年のことです。

配送業の仕事をしている私は、マンホールや医療機器など五十キロ程の荷物を運んでいました。根を詰めて仕事をしているとぎっくり腰のような腰痛に見舞われるようになりましたが、すぐに良くなりました。

しかし、しばらくすると左側の坐骨のあたりが痛みはじめ、歩いただけでも、腿（もも）から脛（すね）にかけて痺れるようになりました。股関節も鋭い痛みが走り、痛みが治まるまで、しばらく休憩しなければならないほど動かせなくなり、仕事が出来なくなってしまいました。

会社に診断書を提出するために、整形外科に行くと、「椎間板ヘルニア」と診断されました。レントゲン画像では、変形している椎間板が茶色になっており、お医者さんは、「この色をしているヘルニアはもとに戻らないので、手術しかない」と手術を勧められ、鎮痛剤や胃薬を処方されました。

私は、この度も浄霊で元気になると思い、しばらく仕事を休んで、毎日浄霊を受けることにしました。

はじめは、椎間板の辺りや腰回りに張りと熱を感じておりましたが、続けて浄霊を受けますと、日に日に腰の違和感が楽になっていることに気づきました。

その後も、ほとんど毎日支部で浄霊を受けますと、一ヵ月経つ頃には、引きずっていた腰や脚の痛みと痺れがきれいに治り、以前のように歩けるようになったのです。

おかげ様で、仕事もなるべく足腰に負担のかからない配達業務に復職させていただくことが出来ました。その四年後には、再び重たい荷物を運ぶ業務が出来るようになり、再発もしていません。本当にありがたいです。

この度も、明主様の素晴らしい御守護を賜りまして、心穏やかに健やかな毎日を過ごしています。

（福岡県福岡市）

発熱・腹痛・嘔吐…入院

絶望から救われ喜びと幸せの生活…

ネパール・ポルサバザール出張所　ジーナ・グルン（35）

二〇一八年、私が三十歳の時のことです。私は急に体調が悪くなり、発熱、腹痛、嘔吐などが続き…その後も気を失うことがありました。すぐに病院に行くことになり、十日ほど入院しても治らず、いろいろな方法を試しましたが、何も食べられず再入院となりました。それから九日間入院しましたが、それでも改善されることなく瀕死とも言える状態でした。

立ち上がって歩くには大人二人がかりのサポートが必要で移動も困難でした。入院していてもなかなか症状は改善されず、まさに絶望と言える状態でしたので、母は私を家まで連れて帰ってくれました。

母は以前から新健康協会の会員でしたので、「手の施しようがないなら浄霊を受けてみては…」とナランガー支部まで私を連れて行ってくれました。浄霊を受けてすぐに変化があったという訳ではなかったのですが、家の近くにポルサバザール出張所がありましたので、そこに通うようにしました。

毎日浄霊を二回ずつ受けに行くことを、二ヵ月間続けました。すると驚いたことに少しずつ体調が改善していったのです。歩くことも出来なかった私が歩けるようになり、熱も高く顔も赤かったのですが、その赤みがとれました。私はとても嬉しくなり、それからずっと浄霊を続け、二〇一八年六月十九日に入会しました。

今では以前の体調が嘘のように元気になり、喜びと幸せの生活を送っています。少しでも多くの方が救われてほしいので、出張所に行った時は浄霊等をさせていただき、多くの方に浄霊の素晴らしさをお伝えしています。

明主様に心から感謝いたします。

（ネパール・チトワン）

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

ウイルス性胃腸炎

食生活の大切さ 身に沁みて分かる…

田川支部
石元美穂（34）

私は今年の一月八日より仕事中に下痢の症状が続き、翌九日の夕方、仕事から帰宅してから発熱と嘔吐があり、下腹部全体が定期的に激しく痛みました。その様子を見て母が浄霊をしてくれました。その後、熱が一層高くなって、下腹の激痛が途切れることなく続くようになりました。あまりの苦痛に私は不安な気持ちになったので母に話しましたら、母は支部へ電話をして御守護お願いをしてくれました。すると少しずつ熱とお腹の激痛が治まりはじめ、一時間ちょっと経つ頃には空腹感があり、少量のうどんを食べることが出来ました。

その後も徐々に痛みがおさまり、私は翌朝までウトウト眠ることが出来、痛みのない時間が少しずつ長くなっていきました。

次の日、自宅近くのクリニックに行くと「ウイルス性胃腸炎」との診断を受けました。その結果を職場へ報告したところ、あと二日休んでいいとのことでしたので、その間しっかり浄霊を受けられると思うと大変安心しました。

そして家で養生しながら母から浄霊を受けましたが、自分自身も出来ることをしたい…と思い、家族の浄霊等を実行してみました。すると、その途端に具合の良くなるスピードが速くなり、食事も楽に食べられるようになって睡眠時間も長くなり始めました。

おかげ様で一月十四日、五日振りに仕事に行くことが出来ました。最初は不安でしたが、二、三時間おきに痛みはあるものの、いつしかその痛みも忘れてしまう程仕事に集中出来、体がとてもよく動きましたので、本当に嬉しくて驚きました。その後も続けて毎日仕事に行くことが出来、現在では本当に元気になり、生活に支障なく過ごしております。

私は今までに中耳炎、扁桃炎、新型コロナウイルス感染症など様々な体験がありますが、明主様の御守護の中、薬に一切頼ることなく浄霊で元気になりました。私はたくさんの人救いが出来るように今出来ることを最大限努力したいと思っています。

また私は以前、食生活に対してあまり関心がなく、仕事時の昼食もインスタント食品などをよく好んで食べていましたが、だんだんと体調が悪くなることを体感しました。そこで、出来るだけ家で弁当を作って持って行くようにしますと、それから体調が好転しはじめましたので、日常の食生活の大切さがよく分かって考えるようになりました。

そのような時、自宅から約二十分の所に無農薬・無肥料栽培が条件の貸農園が開園したことをきっかけに、明主様の自然農法の実行に携わらせていただけるという機会を得ました。

土作りや草取りは想像以上に大変でしたが、それ以上に自然のエネルギーを感じながら気持ち良く実行出来たこと、また野菜の成長が楽しみで愛情が湧いたこと、そして、じゃがいも、落花生など甘味があって美味しい野菜が収穫出来たことなど、たくさんの初めての経験をしました。

今後、浄霊と共に無農薬・無肥料でも美味しくて立派な野菜が出来ることをお伝え出来るように、自然農法の実行にも努めていきたいと思っています。

（福岡県田川郡）

糖尿病

「ありえないこと…」主治医が驚いて…

東京支部
竹中恵美子（74）

私は以前から糖尿病でしたが、数値が上がらないように常に意識し、検査の日が近づくと憂鬱な日々を過ごしていました。そんな時に友人から「浄霊」という健康法があることを聞き、二〇一六年四月に初めて支部へ連れて行ってもらいました。

初めはどうなのかな…と思っていましたが、浄霊を受けてみて気分が良かったことを今でも覚えています。浄霊によって魂が浄められると体の生理作用に変化が起き、体内の不純物が出ると聞き、もしかしたら、数値に変化が現れるかもしれない…と思いました。

支部で浄霊を受けたあと、友人からも浄霊を受けました。その後、病院にて検査すると数値が第三期から第一期の正常に戻っていました。主治医も「ありえないことだけど素晴らしいね」と驚いていました。本当に嬉しかったです。今迄は薬を飲んでいるだけでは数値が下がらず、主治医からも「数値が第五期になると透析になるから、これ以上数値を上げないように…」と言われていたので、この奇跡は、とても驚くべきことでした。

また体の調子も良くなり、いつも気分が良く、友達からも「歩くスピードが速くなって元気になったわね」と言われ、浄霊のことをお伝えすると、「私も行ってみたい」との反応があり、「浄霊を受けた後は気持ちがいい」とか、「腫れが引いて楽になった」と言われることが嬉しくなりました。

心の問題からも救われる…

私自身が浄霊によって、医者から一生治らないと言われていた状態が次々と快方に向かったので、周りの方にも浄霊の素晴らしさをお伝えしたいと思い、その年の七月十九日に入会しました。

現在に至るまで数々のおかげを頂き、薬の量も減ってきています。足のしびれや、手の痛み、体全体がすっきりして軽くなったことで、体重も減りましたし、心の問題や想念の持ち方等も、物事を深く考え過ぎなくなり、毎日を元気に過ごすことが出来ています。

私だけでなく、周りの方も元気になる浄霊をこれからも受けていきたいと思います。

（東京都日野市）

浄化作用

人間には体内の毒素（＝汚物）を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素がハナやタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

自然農法

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談

荒尾支部
柴尾義博（75）

私は熊本県玉名市と阿蘇市で自然農法での米作りを実施しています。

最近、無肥料無農薬栽培（自然農法）の農産物を求める消費者の方々が増えていると聞いております。私も農家を継いでから2回も農薬中毒になり、自分の体と農業の行く末に不安を感じ、一時低農薬栽培に切り替えましたが、25年前に自然農法を始めました。

大自然の法則に適った農業

最初は草取りが大変でした。また過去に投入した肥料や農薬が肥毒として蓄積していたため、虫や病気で収穫が上がらない事もありました。しかし尊い人間の生命を支える農産物は、不純物のない、生命力溢れた生きた野菜や米でなければならないと、土の清浄化、種の清浄化に努めてきた結果、自然農法こそ大自然の法則に適った農業であるとの確信を得るにいたりました。

それ以来自分なりに工夫を加えながら、より安全で消費者の皆様に安心して美味しく召し上がっていただける米作りを目指して、日々努力をしています。

しかしある時、「米アレルギーの人の中には無農薬でもコシヒカリ系は食べられない人がいる…」また「化学物質過敏症の人には種の肥毒にも敏感に反応してしまう…」という話を聞き、無肥料無農薬栽培の農産物こそ全ての人の心と体を健康にするものと思っていた私は、そういう人達の存在に強い衝撃を受けました。

私達農家の使命は、天の恵みである生命力溢れる農産物を全ての人に平等に食して頂き、未来永劫にわたって生命をつなぎ繁栄に導くことだと私自身は感じておりますので、これは何とかしなければと思いました。

農林48号との出会い

さて、化学物質過敏症の人もそうでない人も共に安心して食べられる米は果たしてあるのか、しかも九州地方で栽培可能な品種は…と模索が始まりました。まず注目したのは、かつては人気を博しながら今は「幻の米」となった古い品種です。その中から再び人気が出てきた「農林48号」という品種に興味が湧きました。この米は雑草に強く除草剤や化学肥料を使わなくても栽培が可能であり、また標高４００メートルくらいが栽培最適地ということで、私の阿蘇にある田んぼで自然栽培が可能だと思ったのです。

最初は実験的に1反ほど作ってみたところ、思ったより良く出来たので少しずつ耕作面積を増やしました。おかげ様で、年々収量も増え、現在では米の栽培も安定しています。

これからの食の安全、そして未来に至るまでの繁栄、大きくは国の将来を思う時、この自然の法則に適った自然農法が一般的な当たり前の農業として認められ、定着しなければならないと考えます。そのためには現在一部の農家でしか行われていない自然農法の輪を広げ、農家と消費者と流通が一体となって国を動かす大きなうねりとなるよう、取り組みを行い、努力していきたいと思います。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

歌川広重作『名所江戸百景』之内《高輪うしまち》

海上の空には、大きな弧を描いた虹がかかり、雨上がりの煌めく空気感が伝わってきます。手前で存在感を示す車輪は、本作のタイトル《高輪うしまち》の由来である牛車の一部でしょう。大胆にトリミングされたその車の陰には可愛らしい子犬が二匹、草履の紐を咥えてじゃれています。浜辺には放られた西瓜の皮、海にはたくさんの帆船が浮かび、人々の姿は直接描かれていませんが、働き、食べるという人の営みの気配に満ちた清々しい情景です。

「うしまち」というのは東海道の高輪大木戸の西で泉岳寺の近く、現在でいえばＪＲ山手線「高輪ゲートウェイ」の前、東京都港区高輪にあった「車町」のことを指します。寛永十一（一六三四）年に増上寺の安国殿を建立する際や、同十三（一六三六）年市ケ谷見附の石垣工事の際に、資材を運ぶ牛車が大量に必要とされたため、幕府は京都四条車町から牛持人足を呼び寄せました。当時江戸には重量運搬機としての牛車はなかったそうですが、これらの工事をきっかけに、終わった後も人足たちはこの地での定住、牛車による荷物運搬の独占が許され車町となりました。当然牛小屋も立ち並ぶことになり、牛の数は多い時で千頭にのぼったとも言われています。この地が牛町と通称された所以です。

本作は歌川広重『名所江戸百景』の一つですが、広重はこのシリーズで各名所の特徴を描きつつも、あえて描かない景物があったり、その場所から見た風景を描いたりと、絵を見た者が自然とその名所を想像するような工夫に富んだ、粋な画面をつくり続けました。本作でいえば、この牛町は月見の名所として知られており、七月二十六日の二十六夜待、八月十五日の中秋の名月には大勢の人で賑わったといいます。そうした町で月見の様子を描くのではなく、西瓜の皮で夏の終わり、つまり今でいう秋を仄めかし、日が落ちれば美しい月が望めることを連想させている訳です。

また、海には石垣が見えますが、これはペリー来航以降、海防強化のために備えられた台場です。安政大地震で被害を受け、修復の記録もあるので、幕末の緊迫した世相と災害からの復興を象徴するものといえます。人々の暮らしの「今」楽しまれている花鳥風月が見事に描かれているのです。

解説　松田愛子

晴明会館

「暮らしと花鳥風月」前期展
期間：６月１日(木)～12月13日(水)
※晴明会館お問い合わせ☎(092)661－1535

健康新聞についてのお問い合わせは
(092)661－1531まで